

第二十二回定例公演

公益社団法人能楽協会九州支部

ほおずき能



舞雛子

飛鳥川

大島衣恵

狂言

咲嘩

野村万緑

能

杜若

木月晶子

恋之舞

令和4年 6月5日(日)

13:00開演 [12:00開場]

大濠公園能楽堂

福岡市中央区大濠公園1-5 TEL092-715-2155

全席自由

一般 5,000円(当日5,500円)
学生 2,000円

プレイガイド

- ◆大濠公園能楽堂 092-715-2155
- ◆チケットぴあ
WEBまたはセブンイレブンにて販売 [Pコード 511-851]
- ◆ローソンチケット
WEBまたはローソン、ミニストップにて販売 [Lコード 84776]



交通アクセス

- 地下鉄
「大濠公園」または「唐人町」下車
徒歩7分
- 西鉄バス
「黒門」または「大濠公園」下車
徒歩5分

※能楽堂館内での御飲食はご遠慮
ください

主催：公益社団法人能楽協会九州支部

第二十二回定例公演

公益社団法人能楽協会九州支部

ほおずき能

仕舞(観世流)

老松

鷹尾 維教

地謡

久保誠一郎
鷹尾 章弘
今村 一夫

仕舞(金春流)

邯鄲

松井 笙子

地謡

北山 春彦
櫻間 右陣
田中 寿男

仕舞(宝生流)

鶉之段

東川 光夫

地謡

久貫 弘能
山岡 晴美
石黒 実都

仕舞(観世流)

野守

井内 政徳

地謡

今村嘉太郎
今村 嘉伸
森本 哲郎

舞囃子(喜多流)

飛鳥川

大島 衣恵

大鼓 白坂 保行
小鼓 幸 正佳

地謡

菅 浦 政徳

地謡

渡辺 康喜
栗谷 充雄
狩野 了一
高林 呻二

狂言(和泉流)

咲嘩

太郎冠者 野村 万緑

主 吉住 講
咲嘩 吉良 博靖

後見 上杉 啓太

能(観世流)

杜若の精 木月 晶子

杜若

後見 山口剛一郎
恋之舞 多々島利之

融

大鼓 白坂 信行 太鼓 吉谷 潔
小鼓 飯富 章宏 笛 森田 光次

後見

山口剛一郎
多々島利之

地謡

多々島法子 菊本 美貴
前田 和子 今村 宮子
長宗 敦子 菊本 澄代

終了予定 16時頃

◎仕舞 一曲の舞所を紋付・袴にて、囃子を入れずに舞う事。
◎舞囃子 一曲の主要な部分を紋付・袴にて、囃子を入れて舞う事。

●演目解説●

狂言「咲嘩」

主人の使いで太郎冠者は都の伯父を迎えに行く。冠者は伯父の顔も家も知らず大声で探して歩くので、都の咲嘩という悪者が伯父になりすます。冠者が咲嘩を伴って帰ると主人は人違いを詫び、穏便に咲嘩を都に帰そうとする。冠者は咲嘩との対応で失言を繰り返す。さて、結末は？

能「杜若」

僧が三河国八橋までやって来た。沢一面に咲き誇るカキツバタに見惚れていると、里の女が現れ、「花のゆかり」をご存じないとは心ない、と難じ、『伊勢物語』にこの八橋のカキツバタを各句の上に置いて旅の心を詠めと言われた都人が、「からころもきつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞおもふ」とつらねたとみえるが、これは在原業平がこのカキツバタを詠んだ歌だと教え、自分の庵へ僧を案内する(物語)。やがて色鮮やかな装束に冠を着して現れ、この装束こそ歌に詠まれた唐衣、はじめ業平と契った高子の後の御衣、冠は業平が宮中で豊明節会に五節の舞を舞った時のものと言い、実は自分はカキツバタの精であると誇り、『伊勢物語』の恋物語を舞に舞い、夜のしらむとともに姿を消す。
恋之舞の小書(特殊演出)が付くと、序之舞の途中に橋掛へ行き、沢辺の水に形見の冠、唐衣を映す。

《予告》

公益社団法人能楽協会九州支部 普及公演

クリスマス能

令和4年12月25日(日)14時開演

大濠公園能楽堂

◇入場料/全席自由 3,500円

能(宝生流)「三山」久貫弘能

狂言(大蔵流)「雁礫」茂山忠三郎

他、舞囃子、仕舞